# 青年期における死生観の検討

## ―境界例心性・パーソナリティ・依存様態との関連

長　澤　彩　音

長澤　彩音

## 要 約

本研究は，青年期における死生観について，境界例心性，パーソナリティ，依存様態との関連について検討することを目的とする。そこで，「死生観とその関連要因についての意識調査」に関する自己記入式質問紙調査を実施した。調査協力者は，都内女子大学の大学生，2 年生から 4 年生 142 名であった。

まず，青年期における死生観について，境界例心性，パーソナリティ，依存様態のそれぞれの因子との関連を相関分析により検討した結果，境界例心性（「衝動性」,「自己像の不安定さ」,「見捨てられ抑うつ感」), パーソナリティ（「外向性」「勤勉性」「神経症傾向」），依存様態（「情緒的依存欲求」「統合依存」）と死生観に有意な相関が見られた。そこで，境界例心性，パーソナリティ，依存様態が , 死生観の中でも臨床的に重要であろうと考えられる【死への恐怖･不安】【解放としての死】【人生における目的意識】にどのように影響をするのかについて検討するため，パス解析を行った。その結果，【死への恐怖】は,「勤勉性」「神経症傾向」が直接的に正の関連を示し,「情緒的依存欲求」を高め,「情緒的依存欲求」は【死への恐怖】を関連し,「神経症傾向」と「衝動性」から「情緒的依存欲求」を介した効果が見られた。【解放としての死】は,「見捨てられ抑うつ感」が直接的に正の関連を示し,「情緒的依存欲求」は【解放としての死】と関連し,「神経症傾向」と「衝動性」から「情緒的依存欲求」を介した効果が見られた。【人生における目的意識】は,「勤勉性」「神経症傾向」が直接的に関連を示し,「統合依存」は【人生における目的意識】と関連し,「見捨てられ抑うつ感」から「統合依存」を介した効果が見られた。従って，自殺に結びつきやすい境界例心性，パーソナリティの傾向を持っていたとしても，情緒的な関わりや特定の対象から安心感を得ることにより，死を生からの回避として考えるのではなく，生に意味を見出せるようになると考えられた。